

第2章 景観の特性と課題

1. 景観の特性

やきもの散歩道地区では、伝統的な窯屋やレンガ造りの煙突、焼き物を使った道や擁壁など、様々な景観資源が至る所に見られ、独特な景観が形成されています。

＜やきもの散歩道地区内の現況写真＞

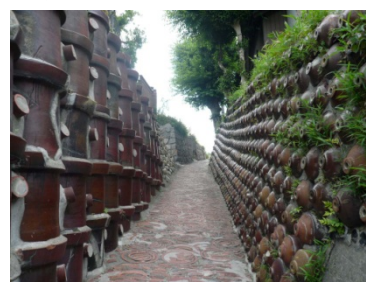
■レンガ造りの煙突・窯



■窯屋を活用した店舗



■焼き物を使った道、擁壁



2. 景観形成の課題

やきもの散歩道地区において景観を構成する建物やレンガ煙突などの一部では老朽化が見られ、また、近年では地区内や周辺に中高層マンションが立地し、地区の景観が阻害され始めています。

やきもの散歩道地区の景観を維持するためには、老朽化した建物等を景観に配慮して修復したり、まちなみにそぐわない建物等が立地しないように制限することなどが必要になります。

3. 景観に関する地域の現状と課題

やきもの散歩道は、市が昭和49年に、地区内のAコースと周辺の焼き物関係施設を巡るBコースを散策コースとして設定し、これまでに、登窯広場展示工房館の整備や廻船問屋瀧田家の修復整備を始め、コース案内板の充実等、地区の魅力向上に努めるとともに、PR事業も進めてきました。

こうした取組に伴い、Aコースへの来訪者数は、平成10年ころには年間5万人程度でしたが、近年では30万人を超えるものと推計されています。

このように、来訪者数が増加する一方で、観光客の迷惑行為が地区で問題となっています。また、観光関係の店舗・飲食店も増加しており、こうした事業者と住民との共生も課題となっています。

さらに、当地区は、外周部の一部を除き、小高い丘に形成された市街地であり、生活道路は勾配があつて狭く、高齢者にとっては、日常生活においても支障が生じており、火災や救急といった緊急時の対応と合わせて課題となっています。

しかしながら、この狭い道路は、地区の景観を構成する要素でもあり、生活環境の改善との調和が課題となっています。

このようなやきもの散歩道地区における景観に関係した生活面での課題についても、今後、景観保全に関する取組の推進と合わせて、改善していく必要があります。